

## 袖振り合うも多生の縁

第12期OB 荒井 礼

「荒井、ちょっと支店長室に来てくれ」。「広島に異動だ、来週には広島支店に着任してくれ」。

お世話になります。第12期OBの荒井です。小野ゼミのイベント参加率の高さを誇りに思っていました。最近是不参加が続き残念に思っています。というのも、前述の通り、広島支店に2019年10月1日付けで異動となり、距離的に参加が厳しい状況となっています。銀行は、顧客との癒着や不正の隠蔽を防止するため、約3年に1回の短期間で異動を発令し、異動発令から着任までわずか1週間程度しか猶予を与えません。横浜支店に着任して3年半が経ち、いつか自分も来るだろうと覚悟はしていたものの、初の異動は精神的にかなりキツイものでした。慌ただしくも無事、広島支店に着任は出来ましたが、横浜で良くしてくれた人たちの思い出ばかりが浮かんで、心ここにあらずという状態がしばらく続いていました。

銀行の厳しさを実感した私ですが、昔支店長が何かの機会で話していた言葉を思い出し、救われることがあります。それは、袖振り合うも多生の縁——知らない人とたまたま道で袖が触れ合うようなちょっとしたことも、前世からの深い因縁であるということ、転じて、人との縁はすべて単なる偶然ではなく、深い因縁によって起こるものだから、どんな出会いも大切にしなければならない——という言葉です。どうしても、前にいた環境の方が良かったとか、この人は自分に合わないと思ってしまうことがあります。目の前の出会いを大切に、前向きに取り組んでいこうと思っています。

ところで、そうした「人との出会い＝深い因縁によって起こるもの」と強く感じざるを得ない出来事が偶然にもありました。なかなか良き出会いに恵まれないと現役時代から長く小野先生を困らせていた私でしたが、広島への異動の直前に横浜に異動してきた同期と現在お付き合いをさせていただくに至りました。共に働く期間は短いながらも強いご縁を感じました。このご縁を大切にしながら、広島でも強く生きたいと思えます。広島はお酒と刺身が美味しく、おすすめの居酒屋がありますので、お越しの際はぜひお声かけください。



広島を生牡蠣



瀬戸内海の刺身（穴子の刺身が美味です）。



宮島にて、著者と鹿。